

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	経済学基礎
科目基礎情報						
科目番号	0076		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	化学・バイオ工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	プリントを教科書の代わりとする。					
担当教員	吉村 忠晴					
到達目標						
① 現代の市場構造について理解し、現実の事例を踏まえて説明できる。 ② 企業行動に関する理論について理解し、現実の事例を踏まえて説明できる。 ③ 市場の失敗について理解し、現実の事例を踏まえて説明できる。 ④ 企業の社会的責任と法令遵守（コンプライアンス）について理解し、現実の事例を踏まえて説明できる。 ⑤ ESG、SDG sとの関連を意識し、経済学の考え方を援用した課題解決について現実の事例を踏まえて説明できる。 ⑥ 各自のキャリアデザインに必要な情報を収集し、それらを適切に活用できる。 ⑦ 主体的に各自の生き方・働き方を考え、これからの人生や職業生活を設計できる。 ⑧ 指定された体裁・書式に従い、的確な文章表現とわかりやすい図表で課題を作成できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
基礎的能力 社会		ミクロ経済学の理論・考え方を体系的に理解でき、実社会で活用できる。	ミクロ経済学の理論・考え方を正しく理解できる。	ミクロ経済学の理論・考え方を正しく理解できない。		
専門的能力 技術者倫理 (環境倫理、法令遵守、持続可能性)		企業の社会的責任と法令遵守（コンプライアンス）の重要性を十分に理解できる。	企業の社会的責任と法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解できる。	企業の社会的責任と法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解できない。		
態度・志向性（人間力） 倫理観、企業活動理解		現実の経済問題の問題解決にミクロ経済学の理論を活用できる。技術者を目指す者として、ESG、SDG sを十分に意識し、かつ法令やルールを順守した行動を率先してとることができる。	現実の経済問題をミクロ経済学の理論と関連づけて理解できる。技術者を目指す者として、ESG、SDG sを意識し、かつ法令やルールを順守した行動をとることができる。	現実の経済問題をミクロ経済学の理論と関連づけることができない。技術者を目指す者として、ESG、SDG sに無関心で、かつ法令やルールを順守した行動をとることができない。		
汎用的技能 情報収集・活用力 態度・志向性（人間力） 企業活動理解、キャリアデザイン		各自が収集（業界研究・企業研究）したキャリアデザインに必要な情報を適切に活用できる。	各自のキャリアデザインに必要な情報を収集（業界研究・企業研究）できる。	各自のキャリアデザインに必要な情報を収集（業界研究・企業研究）できない。		
汎用的技能 コミュニケーションスキル		図表を適切に使用し、工夫された表現方法と的確な構成立てによって、他者が求める情報を明確に伝えることができる。	指定された書式・体裁に従って、正しい日本語表現で、他者が求める情報を伝えることができる。	指定された書式・体裁に従って、正しい日本語表現で、他者が求める情報を伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (C)						
教育方法等						
概要	ミクロ経済学の基礎的な理論を学習し、市場のメカニズム、企業の経済活動を理解することで、各自が今後の日常生活や仕事の中で直面する様々な問題についての選択や判断、意思決定、問題解決に役立てられるようにする。 ディプロマポリシー（準学士課程）の「1. 豊かな教養と周囲に配慮できる人間性」、「3. 自ら工夫し、広い視野から新しい発想ができる能力」に対応					
授業の進め方・方法	授業では、スライドとプリントを使用した講義を行うとともに、講義内容に関してインターネットを活用した課題演習を実施する。 定期試験は実施しない。 課題演習の成績を100%で評価し、60点以上を合格とする。再試験は実施しない。					
注意点	各自の将来の目標を念頭に、常に企業やビジネスの動向を把握しておくこと。授業内容とESG、SDG sとの関連を意識すること。常にPDCAサイクルを実践し、問題点を改善していくこと。ホウ・レン・ソウを忘れないこと。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	経済学とは (1) 経済学の基本概念	経済学の基本概念について理解し、説明できる。		
		2週	経済学とは (2) 経済学の課題、経済主体の役割	経済学の課題について理解し、説明できる。経済主体の役割について理解し、説明できる。		
		3週	完全競争市場 (1) 完全競争市場の条件、需要と供給の均衡	完全競争市場の条件と市場均衡について理解し、説明できる。		
		4週	完全競争市場 (2) 完全競争市場のメカニズム	完全競争市場のメカニズムと効率的な資源配分について理解し、説明できる。		
		5週	企業の利潤最大化行動 (1) 最適生産量の決定	企業の利潤最大化行動（最適生産量の決定）について理解し、説明できる。		
		6週	企業の利潤最大化行動 (2) 損益分岐点と操業停止点	企業の利潤最大化行動（損益分岐点と操業停止点）について理解し、説明できる。		
		7週	不完全競争市場 独占市場、寡占市場、独占的競争	独占市場、寡占市場、独占的競争における企業の行動について理解し、説明できる。		
		8週	市場の失敗 (1) 情報の非対称性（逆選択、モラル・ハザード）	情報の非対称性（逆選択、モラル・ハザード）とその対策について、雇用のミスマッチの問題と関連づけて理解し、説明できる。		

4thQ	9週	課題演習（1）	キャリアデザインに必要な業界および企業に関する情報を適切に活用し、求める人材像に合致した自己アピールができる。
	10週	市場の失敗（2） 外部性、公共財、共有資源	外部性の問題とその対策について、環境問題と関連づけて理解し、説明できる。公共財とフリーライダー問題、共有資源と共有地の悲劇について、資源問題と関連づけて理解し、説明できる。
	11週	企業活動（1） 企業のしくみと役割	企業のしくみと役割について理解し、説明できる。
	12週	企業活動（2） 企業の社会的責任	不祥事の事例から企業の社会的責任について理解し、説明できる。ESGを踏まえてエンジニアとして取るべき行動について理解し、説明できる。
	13週	企業活動（3） 企業活動における課題	企業価値向上のための方策について、SDGsと関連づけて理解し、説明できる。
	14週	課題演習（2）	企業の社会的責任、企業価値向上に関する取り組み事例についての情報を収集し、その内容をまとめることができる。
	15週	まとめ	課題演習で与えられたテーマに関して、指定された体裁・書式に従い、的確な文章表現とわかりやすい図表でまとめることができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	後2,後3,後4,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	後10,後11,後12,後13,後14,後15
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	後10,後11,後12,後13,後14,後15
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				全ての人が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
	分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3
自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。					3	後8,後9,後14,後15
目標の実現に向けて計画ができる。					3	後9,後14,後15
目標の実現に向けて自らを律して行動できる。					3	後9,後14,後15
日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。					3	後9,後14,後15
社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。					3	後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	後10,後11,後12,後13,後14,後15
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	後8,後9,後11,後12,後13,後14,後15
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	後2,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	後8,後9,後11,後12,後13,後14,後15
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	後10,後11,後12,後13,後14,後15
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているかを説明できる。	3	後2,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	後2,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	後9,後14,後15
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	後1,後2,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
評価割合						
			課題演習		合計	
総合評価割合			100		100	
基礎的能力			10		10	
専門的能力			30		30	
態度・志向性			40		40	
汎用的技能			20		20	